

戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”

【基本方向】

<目指す姿>

- ・ 新型コロナウイルス感染症の蔓延による社会構造の変化を踏まえ、優れた技術を有する多様な産業分野の企業が医療健康分野へ参入し、有機的に結び付くことにより、北米のリサーチ・トライアングル等海外のクラスターとも肩を並べる医療健康分野の集積地が形成されている。
- ・ プロジェクトの取組が県境を越え、県外の企業やアカデミア等と強固なネットワークを構築することにより、医療城下町が更なる成長を遂げている。

<取組の方向>

- ・ 市町と協働して、医療機器・医薬品開発等の企業や研究施設の誘致等に取り組むとともに、地域企業の医療健康分野への参入支援や、ベンチャー企業の育成を進める。
- ・ 山梨県等、他県の企業やアカデミア等との連携により、全国に広がるネットワークと各地域の特色ある技術・取組の活用を推進し、医療健康産業の更なる基盤強化を図る。

【戦術1】 医療城下町（Medical Garden City）を核とした高付加価値産業の集積企業誘致等による集積の促進

県・市町が連携した企業誘致、流出防止

工業団地などのインフラ整備を促進し、富士山麓地域に、医療健康分野の企業や研究施設を積極的に誘致するほか、ICT 関連等、規模は小さくても高い付加価値を生み出す産業の集積にも取り組みます。

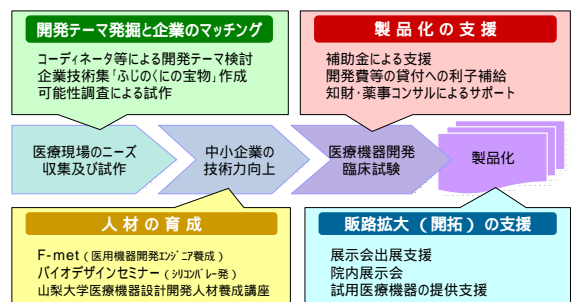
地域企業と大企業とのサプライチェーン構築

地域企業の優れた技術について、大企業へ情報発信を行うほか、企業内展示会の開催等によってマッチングの機会を提供し、大企業と地域企業との部品・部材等の供給などでの連携を促進します。

参入支援とベンチャー企業の育成

地域企業の医療健康産業への参入支援

- ・ ファルマバレーセンターに配置したコーディネータが、地域企業の医療健康分野への挑戦を伴走支援するとともに、拠点施設に入居する薬事コンサルタント等との連携により、参入障壁となる薬事関連法規など法制度への対応を全面的にサポートし、地域企業の参入促進を図ります。

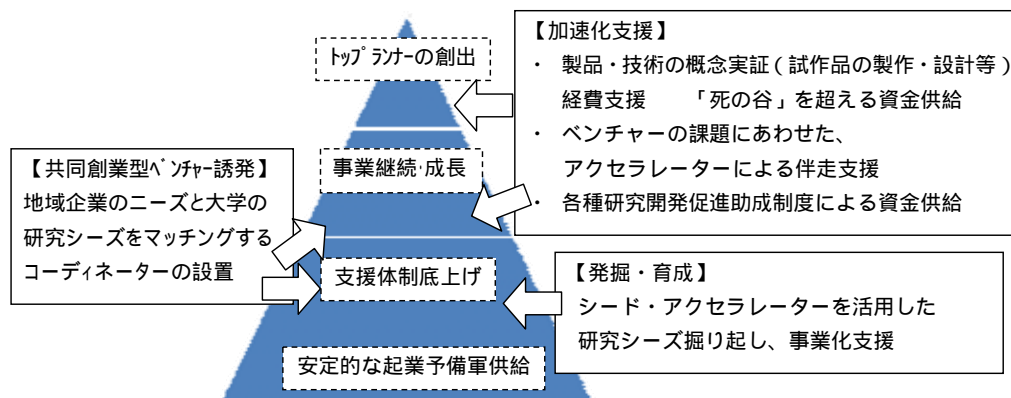


ファルマバレーセンターの ものづくりプラットフォーム

- ・ 新型コロナウイルス感染症対策等に関わる地域企業の技術開発を集中的に支援することにより、医療健康産業への転換を加速化させます。
- ・ 健康長寿・自立支援プロジェクトを推進し、介護・福祉分野の多様なニーズを、幅広い産業分野の地域企業に結びつけることにより、新たな参入の拡大を図ります。

大学発ベンチャー等の育成

大学発ベンチャーへの支援体制を強化し、民間アクセラレーターとも連携しながら、有望な研究シーズの掘り起こしや地域企業のニーズとのマッチング、研究開発への伴走支援等を行うほか、各種研究開発促進助成制度による資金供給など、創業者やベンチャー企業の育成・支援に取り組みます。



大学発ベンチャーの継続的な創出に向けた支援

人生 100 年時代の課題への対策

市町等との連携による健康長寿社会の形成

- ・ 連携協定を締結している長泉町など周辺市町と連携して、医療や介護福祉現場を実証フィールドとして活用するなど、プロジェクトに参画する地域企業を積極的に支援することにより、地域における健康長寿社会の形成と、医療健康産業を核とした経済発展の促進を図ります。
- ・ 裾野市内で計画されているトヨタ自動車(株)の「コネクティッド・シティ」プロジェクトなど、民間企業の先進的な取組との相乗効果も視野に入れ、プロジェクト発の仕組みや製品の社会実装を図ります。

健康をテーマとした地域づくり

地域資源を活用した癒しの提供

かかりつけ湯や、温泉、食材、文化芸術等を組み合わせた癒しの提供、スポーツや多彩な地域文化の振興のほか、市町の健康づくりプログラムの普及促進、食育の推進などに取り組みます。



リラクゼーションプログラム
(伊豆市 船原館)

フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの成果を活かした地域づくり
 フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトが取り組む、ビッグデータに基づく研究成果の社会実装や、データヘルス・リビングラボによる実証実験、健康食ビジネスモデルの創出などの成果を活用し、市町と連携して健康をテーマとした地域づくりに取り組みます。

【戦術2】 「点から面へ」プロジェクト推進エリアの拡大

山梨県との連携による医療健康産業の活性化

山梨県内の医療機関や企業等のニーズ・シーズの活用

山梨県が進める「メディカル・デバイス・コリドー推進計画」との相互連携により、山梨大学が立地するほか、本県とは異なる産業構造を有し、産業用ロボットや半導体、工作機械等特徴的な技術を有する山梨県のリソースを活用することにより、本県企業のものづくり力の強化や生産性向上を図り、医療健康産業の更なる活性化を目指します。



山梨県「メディカル・デバイス・コリドー」推進計画との連携

広域連携を通じた取組の充実

他県の技術やネットワークの活用

岐阜県や愛知県大府市など、周辺自治体との広域連携に積極的取り組み、プロジェクトを点から面へと展開します。愛知県大府市のウェルネスバレーの実証フィールドを活用した介護・福祉機器等の研究開発や、岐阜県内企業の刃物加工技術と本県企業のものづくり技術とのマッチングなど、各地域のネットワークや特色ある技術の活用を進めます。



周辺自治体との広域連携

エリア拡大による情報発信力の強化

展示会への共同出展や、県外医療機関での院内展示会の開催など、相互連携による情報発信に取り組み、医療城下町の更なる充実を図ります。

戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開の推進”

【基本方向】

<目指す姿>

- ・ 医薬品、医療機器の国産化・輸出産業化が進展し、医療健康産業が本県経済を牽引するリーディング産業へと成長するとともに、プロジェクトの先駆的な取組や仕組みが国境を越えて広がり、世界の医療・介護の質の向上や社会課題の解決に貢献している。

<取組の方向>

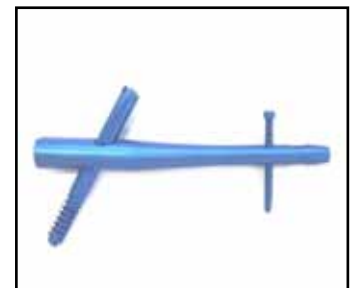
- ・ インプラント等アジア向けの戦略的商品の開発や、感染症治療薬等輸入代替品の開発など、輸入に頼る医薬品、医療機器の国産化を推進する。
- ・ 静岡がんセンターの医療哲学等、プロジェクトの先駆性を広く発信し、世界の医療・介護の現場への定着を図る。

【戦術1】 世界市場への戦略的製品の開発

医療機器等の国産化の推進

アジア向け戦略的製品開発への支援

アジア人の体格に合わせたインプラントや手術器具など、海外展開を見据えた戦略的な製品の開発を推進します。



アジア人の骨格に合わせた人工関節インプラント

「命を守る産業」の基盤強化

将来の輸出産業化も見据えて、助成制度により感染症治療薬・診断薬や人工呼吸器等、海外からの輸入に依存する医薬品・医療機器等の国産化を着実に進め、「命を守る産業」のリーディング産業である医療健康産業の一層の基盤強化を図ります。

全国の産業クラスターとの協働による企業支援の強化

ふじのくに先端医療総合特区を中心とした全国の産業クラスターとの協働により、中小企業の情報交換や技術交流、販売協力を積極的に進め、世界に通じる製品の開発に取り組むとともに、日本全体の医療健康産業の活性化を図ります。

世界展開に向けた生産体制の構築

世界標準の品質管理システムの導入支援

ファルマバレーセンターのコーディネータと拠点施設に入居する薬事コンサルタント等との連携により、地域企業によるQMS体制の整備や世界標準の品質管理システム（ISO13485）の導入、認証（FDA、CEマーク）の取得等に対して助言・指導を行い、世界展開に向けた生産体制の構築を支援します。

【戦術2】 プロジェクト発の優れた仕組みの輸出

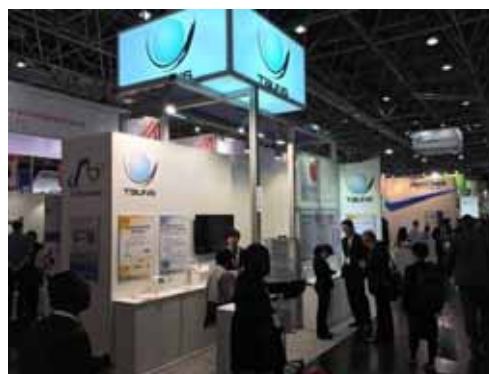
“Made in Mt. Fuji” の先駆的取組や製品の海外への発信

プロジェクトの先駆的取組の発信

患者の視点を重視する静岡がんセンターの医療哲学について、海外の医療機関への導入を促進します。また、日本は世界に先駆けて人生100年時代を向かえていることから、「健康長寿・自立支援プロジェクト」の成果である高齢者の自立を支える住環境や製品群について、世界に向けて広く発信し、世界の医療・介護の質の向上や社会課題の解決に貢献します。

地域企業の販路開拓に向けた取組支援

海外展示会への出展支援や、海外市場に関する情報提供、製品供給エリアの拡大に向けた戦略構築支援などにより、地域企業の海外販路の拡大を図ります。



海外展示会の例（MEDICA：ドイツ）

参考 1 戦略・戦術ごとの展開と所管部署

戦略 1 ベッドサイドのニーズに応える“ものづくり”

戦術 1 インパクトのあるイノベティブな製品の開発

展開の内容	所管部署
1 静岡がんセンターを中心とした研究開発 大手企業との連携による製品開発 (1) 静岡がんセンターによる大手企業と連携した革新的ながん治療薬・診断薬や次世代機器等の研究開発	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当】 新産業集積課
トランスレーショナルリサーチの推進 (1) 静岡がんセンター研究所を中心とした研究開発 (2) 創薬・診断薬開発 (3) 治験・臨床研究の推進	【実施主体】 静岡がんセンター ファルマバレーセンター 静岡県立大学 環境衛生科学研究所 【県担当課】 新産業集積課 薬事課
ニッチ製品の研究開発 (1) ファルマバレーセンターによるニッチ製品の研究開発支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当】 新産業集積課 産業イノベーション推進課
2 テーマの重点化による研究開発の推進 プロジェクトHOPEによる治療薬・診断薬等の研究開発 がん診断装置、生体適合素材等医療機器・部品部材の研究開発 感染症対策関連等、社会課題に対応する製品の研究開発	【実施主体】 静岡がんセンター ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
3 新たなプロジェクト連携による新製品・新技術の開発 先端産業創出プロジェクトとの連携強化 (1) フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトやフォトンバレープロジェクト、MaOI プロジェクト、ふじのくに CNF プロジェクト、AOI プロジェクト等との連携	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 産業政策課 新産業集積課 産業イノベーション推進課 農業戦略課
県境を越えた連携による研究 (1) 山梨県との連携による研究開発 (2) 首都圏の AI・IoT 関連企業との連携による研究開発	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課

戦術 2 健康長寿・自立支援プロジェクトの推進

展開の内容	所管部署
1 人生 100 年時代を見据えた製品開発 介護機器・医療機器の研究開発 (1) ロボットベッド等自立支援の中核を担う介護機器の研究開発 (2) 高齢化により衰える機能の補完や、QOL の向上に資する医療機器等の研究開発	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
超高齢社会における理想の住環境の提案 (1) 高齢者の自立をサポートする理想の住環境の提案 (2) モデルルームの活用による地域企業の参入拡大	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
老化現象の予測・予防 (1) プロジェクトHOPEの遺伝子解析データを用いた、老化現象の進行予測・予防	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦術3 マーケティングのシステムづくり

展開の内容	所管部署
1 販売促進 プロジェクトの成果の導入・販売促進 (1) 医療機関への使用促進に向けた働き掛け (1) 卸売り業者や大手メーカーの販売ネットワークの活用	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
プロジェクトの成果のブランド化 (1) プロジェクトの成果のブランディングによる販売促進	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課
戦略的なマーケティングに向けた体制の構築 (1) 販売戦略等に関して豊富な知識や経験を有する人材の活用による戦略的なマーケティング	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦略2 医療と産業を担う“ひとづくり”

戦術1 プロジェクトを支える人材の育成

展開の内容	所管部署
1 質の高い医療人材の育成 医師、看護師の育成 (1) レジデント制度による医師・歯科医師の育成 (2) 認定看護師教育課程による高度な看護師の育成 (3) 連携大学院制度による質の高いがん専門家の育成	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 地域医療課 新産業集積課
新しい医療連携システムによる人材育成 (1) 多職種チーム医療の取組を活用した医療者の育成 (2) 患者・家族への情報提供(処方)	【実施主体】 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課 地域医療課 疾病対策課
大学と連携した健康関連人材の育成 (1) 最新のトレーニング理論やスポーツ医学等に精通した健康関連人材の育成	【実施主体】 健康増進課 新産業集積課
2 医療健康産業を牽引する産業人材の育成 医療機器開発に精通した技術者等の育成 (1) 医療機器等の研究開発を牽引する人材の育成 (2) 山梨大学医学部との連携による高度な技術者の育成 (3) 専門分野に通じた経営者、スペシャリスト等の育成	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課
高度な研究人材の育成 (1) 医看工連携協定に基づく研究者の育成 (2) 県立大学創薬探索センターでの研究者の育成 (3) 医療現場を活用した企業研究者の育成	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県立大学 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課
学校教育における産業人材の育成 (1) 教育委員会と連携した産業人材の育成	【実施主体】 高校教育課 地域医療課 新産業集積課

戦略3 高付加価値産業が集積し、人生100年時代の価値を生み出す“まちづくり”

戦術1 医療城下町を核とした医療健康分野の産業集積

展開の内容	所管部署
<p>1 企業誘致等による集積の促進</p> <p>県・市町が連携した企業誘致、流出防止</p> <p>(1) 県・市町が連携した企業誘致</p> <p>(2) 企業のニーズや要望に応じた工業用地の整備</p> <p>(3) ICT 企業等高付加価値を生み出す産業の集積促進</p> <p>(4) 大企業と地域企業とのサプライチェーンの構築</p>	<p>【実施主体】</p> <p>県庁</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>【県担当課】</p> <p>企業立地推進課</p> <p>企業局地域整備課</p> <p>総合政策課</p>
<p>2 参入支援とベンチャー企業の育成</p> <p>地域企業の医療健康産業への参入支援</p> <p>(1) ファルマバレーセンターの伴走支援による地域企業の参入促進</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染症対策等に関わる研究開発への集中支援による医療健康産業への転換促進</p> <p>(3) 介護・福祉分野の取組を通じた医療健康産業への参入拡大</p> <p>大学発ベンチャー等の育成</p> <p>(1) 民間アクセラレーターとの連携による研究シーズの掘り起こしや地域企業のニーズとのマッチング、研究開発への伴走支援</p> <p>(2) 各種研究開発促進助成制度による資金供給</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p> <p>産業イノベーション推進課</p> <p>商工振興課</p>
<p>3 人生100年時代の課題への対策</p> <p>市町等との連携による健康長寿社会の形成</p> <p>(1) 長泉町や裾野市等、周辺市町との連携による地域企業の支援</p> <p>(2) ハウスメーカーや住宅設備・建材メーカー等に対する理想の住環境の提案</p>	<p>【実施主体】</p> <p>静岡がんセンター</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p> <p>企業立地推進課</p>
<p>4 健康をテーマとした地域づくり</p> <p>地域資源を活用した癒しの提供</p> <p>(1) かかりつけ湯や温泉、食材、文化芸術等を組み合わせた癒しの提供</p> <p>(2) スポーツや多彩な地域文化の振興</p> <p>(3) 市町の健康づくりプログラムの普及促進、食育の推進</p> <p>フーズ・ヘルスケアオープンイノベーションプロジェクトの成果を活かした地域づくり</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p> <p>観光政策課</p> <p>観光振興課</p> <p>マーケティング課</p> <p>健康増進課</p> <p>商工振興課</p>

戦術2 「点から面へ」プロジェクトの推進エリアの拡大

展開の内容	所管部署
<p>1 山梨県との連携による医療健康産業の活性化</p> <p>山梨県内の医療機関や企業等のニーズ・シーズの活用</p> <p>(1) 山梨県のリソースの活用による本県企業のものづくり力の強化・生産性の向上</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>
<p>2 広域連携を通じた取組の充実</p> <p>他県の技術やネットワークの活用</p> <p>(1) 岐阜県や愛知県大府市等周辺自治体のネットワークや特色ある技術の活用による医療城下町の充実</p> <p>エリア拡大による情報発信力の強化</p> <p>(1) 展示会への共同出展や県外医療機関での院内展示会の開催等、相互連携による情報発信</p>	<p>【実施主体】</p> <p>ファルマバレーセンター</p> <p>県庁</p> <p>【県担当課】</p> <p>新産業集積課</p>

戦略4 世界の医療福祉現場の質の向上に資する“世界展開の推進”

戦術1 世界市場への戦略的製品の開発

展開の内容	所管部署
1 医療機器等の国産化の推進 アジア向け戦略的製品開発への支援 (1)アジア人の骨格に合わせたインプラントや手術器具などの開発 「命を守る産業」の基盤強化 (1)助成制度による感染症治療薬・診断薬等海外に依存する医薬品・医療機器等の国産化の推進 全国の産業クラスターとの協働による企業支援の強化 (1)全国のライフイノベーション分野の総合特区との協働による、中小企業の技術交流、販売協力の促進	【実施主体】 ファルマバレーセンター 県庁 【県担当課】 新産業集積課 疾病対策課
2 世界展開に向けた生産体制の構築 世界標準の品質管理システムの導入整備支援 (1)地域企業による QMS 体制の整備や世界標準の品質管理システム (ISO13485) の導入、認証 (FDA、CE マーク) の取得に向けた支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

戦術2 プロジェクト発の優れた製品や仕組みの輸出

展開の内容	所管部署
1 “Made in Mt. Fuji”の先駆的取組や製品の海外への発信 プロジェクトの先駆的取組の発信 (1)静岡がんセンターの医療哲学の海外医療機関への導入促進 (2)健康長寿・自立支援プロジェクトの成果の発信	【実施主体】 ファルマバレーセンター 静岡がんセンター 【県担当課】 新産業集積課
地域企業の販路開拓に向けた取組支援 (1)海外展示会への出展支援や海外市場の情報の収集、製品供給エリアの拡大に向けた戦略構築支援等による地域企業の海外販路開拓支援	【実施主体】 ファルマバレーセンター 【県担当課】 新産業集積課

参考 2

第 4 次戦略計画検討委員会委員 (五十音順、敬称略)

氏 名	職 名	備 考
池田 和久	公益財団法人 静岡県産業振興財団 副理事長	
大石 人士	一般財団法人 静岡経済研究所 シニアチーフアドバイザー	
大坪 檀	学校法人 新静岡学園 学園長 静岡産業大学 総合研究所所長 公益財団法人 ふじのくに医療城下町推進機構 理事長	
大野 ゆう子	大阪大学大学院 教授	
加藤 久豊	富士フィルムメディカル株式会社 前取締役会長	
鬼頭 宏	静岡県立大学 学長	
笹川 裕記	テルモ株式会社 MEセンター センター長	
勝呂 衛	一般社団法人 静岡県医師会 副会長	
西島 昭男	サンフロント 21 懇話会 (TESS 委員長) 株式会社シード 代表取締役会長	
橋本 正洋	東京工業大学大学院 教授	
花岡 文雄	大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立遺伝学研究所 所長	
廣部 雅昭	東京大学 名誉教授 (元静岡県立大学学長)	
松田 久一	株式会社JMR生活総合研究所 代表取締役	
盛田 延之	東海部品工業株式会社 代表取締役	
矢作 恒雄	慶応義塾大学 名誉教授	
山口 建	県立静岡がんセンター 総長	
山崎 達美	東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社 取締役	
若林 敬二	静岡県立大学 特任教授	

参考3 静岡県ファルマバレープロジェクト第3次戦略計画評価報告書（概要）

1 成果と評価

戦略別	代表的な成果
戦略1 “ものづくり”	医薬品・医療機器合計生産金額は10年連続全国1位 47の地域企業が新規参入、129件の製品を事業化 「ふじのくに先端医療総合特区」が令和元年度にライフイノベーション分野で1位となるなど、トップクラスの評価を獲得 プロジェクトHOPEで約8,000症例のがん臨床データベースを構築 SRL・静岡がんセンター共同検査機構株式会社を平成30年9月に設立し、ゲノム医療を推進 超高齢社会に対応した健康長寿・自立支援プロジェクトを開始 地域企業が新型コロナに対応した製品を開発。抗原検査キットを開発した企業は、数百億円以上の販売規模に対応する生産体制を構築
戦略2 “ひとづくり”	静岡がんセンターが、累計462名の認定看護師を養成 総合特区制度を活用したF-metにより累計91名を育成
戦略3 “まちづくり”	平成28年9月に拠点施設ファルマバレーセンターを全部開所。静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とし、医療健康関連産業が集積する医療城下町を形成 令和元年12月山梨県と医療健康産業に関する連携協定を締結
戦略4 “世界展開の推進”	海外展示会の出展支援により10社以上の販売代理店を新規獲得 モンゴル、ベトナム、中国、ロシアなど、静岡がんセンターの病院システムの世界展開

医薬品・医療機器合計生産金額は、現在10年連続全国1位へと成長を遂げているほか、47の地域企業の新規参入や129件の製品化など大きな成果を挙げ、数値指標においても概ね目標を達成している。

ゲノム医療を推進する新会社が設立されたほか、時代の変化を捉え、介護福祉分野のニーズを取り込んだ、健康長寿・自立支援プロジェクトが開始され、人生100年時代を支えるモデルルームが令和2年度中に完成するなど、新たな取組が進んでいる。

内閣府が認定する総合特区について、令和元年度に1位となるなど、国からも高い評価を受け、静岡がんセンターとファルマバレーセンターを中核とした産学官金の連携のもと、富士山麓の医療城下町が県域を越え拡大しつつある。

地域企業の販路の拡大など既に海外展開は進んでいるが、さらなる発展に向けた展開を考える段階に入っている。

2 委員からの提言（第4次戦略に向けて）

医療に特化した強力な製品の開発

ゲノム医療・がん医療で有用な製品など

超高齢社会など、社会課題に対応する取組の推進

生活支援ロボットの開発や、医療機器等の国産化の推進など

山梨県をはじめとした広域連携によるネットワークの強化

プロジェクトの成果の全国展開と、県外企業等の技術シーズの取り込みなど

○地域企業の更なる成長に向けた取組の充実

ベッドサイドニーズに基づく製品開発の推進と、卸売業者・大手企業との連携による販売促進など

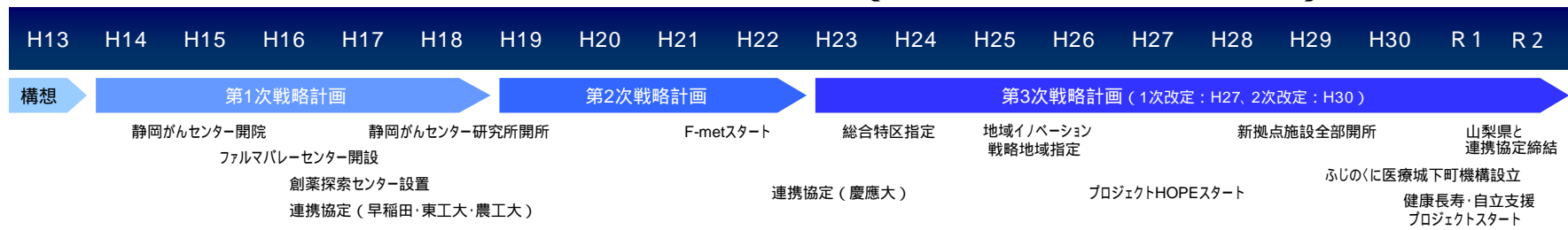
参考 4

ファルマバレープロジェクトのあゆみ

平成 13 年 2 月	富士山麓先端医療産業集積構想(富士山麓ファルマバレー構想)策定(推進期間：平成 13～22 年度)
平成 14 年 3 月	第 1 次戦略計画策定(計画期間：平成 14～18 年度)
平成 14 年 9 月	静岡がんセンター開院
平成 15 年 4 月	ファルマバレーセンター開設
平成 15 年 4 月	静岡県治験ネットワーク構築
平成 16 年 4 月	県立大学創薬探索センター設置
平成 16 年 4 月	都市エリア事業(一般型)に採択(実施期間：平成 16～18 年度)
平成 16 年 6 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学と包括的事業連携協定を締結
平成 17 年 11 月	静岡がんセンター研究所(研究棟)開設
平成 18 年 6 月	広域的新事業支援ネットワーク拠点重点強化事業に採択(計画期間：平成 18～21 年度)
平成 18 年 9 月	第 1 次戦略計画評価報告
平成 19 年 3 月	第 2 次戦略計画書策定(計画期間：平成 19～22 年度)
平成 19 年 3 月	都市エリア事業(発展型)に採択(実施期間：平成 19～21 年度)
平成 19 年 4 月	大手分析機器メーカーが、ファルマバレー長泉工業団地で操業開始
平成 20 年 4 月	静岡がんセンターが多職種がん専門レジデント制度創設
平成 20 年 8 月	静岡がんセンターと世界的製薬企業が、抗がん剤の基礎研究・臨床試験に関わる非独占的包括契約を締結
平成 20 年 11 月	静岡がんセンターが認定看護師教育機関に認定(病院立で全国初)
平成 21 年 5 月	地域再生人材創出拠点の形成に採択(実施期間：平成 21～25 年度)
平成 22 年 2 月	ファルマバレー訪問団が、仏バイオクラスター・研究所等を訪問
平成 22 年 6 月	川上・川下ネットワーク構築事業に採択
平成 22 年 6 月	地域イノベーションクラスタープログラムに採択 (実施期間：平成 22～24 年度)
平成 22 年 6 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新
平成 22 年 10 月	静岡がんセンターが、世界トップレベルの米国腫瘍放射線治療グループに加盟(国内の放射線治療施設として初)
平成 22 年 11 月	モンゴル大統領夫人が静岡がんセンターを視察、夫人が代表を務める N G O と同センターの間で、がんに関する相互協力の覚書に署名
平成 22 年 12 月	総合科学誌 nature に掲載
平成 22 年 12 月	第 2 次戦略計画評価報告
平成 22 年 12 月	慶應義塾大学と包括的事業連携協定締結
平成 23 年 3 月	第 3 次戦略計画書策定(計画期間：平成 23～32 年度)
平成 23 年 12 月	ふじのくに先端医療総合特区に指定
平成 25 年 7 月	地域イノベーション推進地域(国際競争力強化地域)に指定
平成 26 年 7 月	東京工業大学、東京農工大学、早稲田大学との包括的事業連携協定更新
平成 27 年 7 月	第 3 次戦略計画(第 1 次改定版)公表
平成 28 年 3 月	ファルマバレーセンター(静岡県医療健康産業研究開発センター)一部開所

平成 28 年 6 月	総合特区計画変更認定
平成 28 年 9 月	ファルマバレーセンター(静岡県医療健康産業研究開発センター)全部開所
平成 29 年 8 月	(一財)ふじのくに医療城下町推進機構設立
平成 30 年 4 月	(一財)ふじのくに医療城下町推進機構事業開始
平成 30 年 9 月	エスアールエル・静岡がんセンター共同検査機構(株)設立
平成 31 年 4 月	ふじのくに医療城下町推進機構公益法人化
令和元年 12 月	山梨県と医療健康産業政策に関する連携協定を締結
令和 3 年 3 月	高齢者の自立を支援する理想の住環境のモデルルームを整備
令和 3 年 3 月	第 4 次戦略計画定(計画期間:令和 3 ~ 7 年度)

< ファルマバレープロジェクト 19年の軌跡（平成14年度～令和2年度） >



基本理念 「世界一の健康長寿県の形成」

< 「健康増進・疾病克服」と「県民の経済基盤の確立」を両輪とした施策の推進 >

